時局情報宣傳資料

皇國內外の情勢（第十八）

昭和十九年二月五日

極祕

情報局

資料番号 一五一
内閣官房総務課

（本書の大さは國定規格A5判）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

◉注　意

一、本册子は概ね昭和十九年一月中旬現在の資料により當局一情報官の作製せるものを連絡調整の上編輯したものである。

二、本書の目的は關係官の職務遂行上の參考たらしむるにあるも、內容には極祕或ひは祕に屬するものあるを以て保存取扱ひには特に注意を望む。

三、本册子は重點的に問題を取り上げ編輯しあるを以て時に除外するの已むなきに至る問題の自ら生ずるを承知せられたい。

四、本册子は情勢の變化に伴ひ、時々改訂せらるゝことあるを以て、改訂版を受領せば速に新資料と差換へ、舊資料は燒却せられたい。

五、本册子は職務上利用すべきものなるを以て異動等の場合には必ず後任者に引繼ぐべきものである。

目　次

第一、內外概觀……一頁

第二、世界戰局の現況……四

（一）歐洲戰局　（二）大東亞戰局

第三、テヘラン會談前後……一八

（一）第一次カイロ會談　（二）テヘラン會談　（三）第二次カイロ會談

第四、東歐を繞る米英ソ關係……三三

（一）ソ聯・亡命チェコ政權間相互援助條約

（二）ユーゴースラヴィアにおける假政府設立

（三）ソ波國境紛爭

第五、南阿聯邦首相スマッツの演說……四五
第六、決戰增稅の目標……五二
（一）戰時增稅の必要　（二）今次增稅の方針
（三）增稅の內容　（四）稅制及び賦課徵收制度の簡素化
（五）戰時諸政策との調和
第七、日滿を通ずる食糧自給の展望
（一）朝鮮　（二）臺灣　（三）滿洲國……七八
附
戰局の現段階と船舶の重要性
（一）前言
（二）戰爭指導上より觀たる船腹の意義
（三）皇國必勝不敗の態勢の再檢討
（四）航空機生產と造船の本質に就て
（五）船舶損耗の推移と造船
（六）結言

第一、內外概觀

太平洋全水域を擧げての敵の總反攻は、舊臘來頓に熾烈の度を加へ、莫大なる犧牲をも顧みることなく逐次その基地を確保推進せしめ來つた。我方に時を借さず、本年を以て今次大戰の決定的段階たらしめんとする敵は、その持てる巨大なる物量を傾け總力を擧げて執拗なる戰意を誇示してゐる。彼の內包する幾多國內矛盾の激化にも拘はらず、この志向は容易に挫折せしめられることはあるまい。我等は事態を正視して待つあるの備へを固めなければならぬ。

敵の攻勢を迎へ討つて、忠勇なる皇軍將兵は一人よく十人を斃さずんば已まぬ概を以て力闘の限を盡し、「機あれど飛機なし」と無念の痛哭を呑んで、只管軍需生產力の增强を祈念し且つ期待してゐる。前線の死命を制する後方第二線の展開は、まさしく「時との競爭」によつて果されねばならぬ。

一億戰鬪配置の下令以來この第三線の相貌も激變をつづけてゐる。戰局の大勢を決する航空機の增產は、昨年度に比すれば既に三倍以上に達し、今後さらに現狀の數倍に達する躍進を期してゐるが、月產一萬機を呼號し、超重爆機の大量生產に着手せる敵軍需生產の最近の動向に徵しても、前記の成果に晏如たるを得ない。海上輸送力の損害はいまや輕視を許さぬ事態に立ち到つてゐるが、最近に於ける造船能力の增强は目ざましいものがあり、輸送力向上の各般の施策と相まつて、危機打開に邁進してゐる。食糧の確保は、外地及び滿洲國の積極的協力によつて、略、自給可能の見透しを得るに至つた。しかもこれらの見透しをして現實ならしむべく、今後の國內態勢はその規模に於て又その深度に於て、未だ嘗て見ざる態の强化整備を必至とするであらう。

敵を破碎して必勝の基礎を確立すべき臨時軍事費豫算三百八十億圓は去る一月二十七日提案以來僅々三日にして兩院を通過成立を見た。先に提出中の一般會計

豫算百九十九億七百萬圓と並んで、この未曾有の膨大なる戰時財政需要を充足すべく、二十五億圓の增稅と三百五十億の貯蓄目標が定められた。いまや國民はその持てる一切を聖戰完遂に捧げつくし、すべてを戰力と化して戰ひ拔くことを要請されてゐる。

歐洲戰局に目を轉ずれば、こゝにも敵反攻の樣相は顯著である。モスクワ、カイロ、テヘランの諸會談を通じて、敵米英は如何なる讓步にも甘んじてソ聯との完全なる提携に努力し、第二戰線展開の具體的論議をつくしたものと見られる。この對獨總攻勢が如何なる形態をとつてあらはれるかは俄に豫斷を許さぬが、その時期が切迫しつゝあることは明かである。東部戰線の事態も正しく重大化してをり、加えバルカンに於てもトルコの向背、ソ聯系勢力の擡頭等注目すべき諸問題が繼起してゐる。ドイツ民族の上に迫りつゝある未曾有の危機に際して、冷靜よく苦難に耐へ、鐵の如き團結を以て反擊の機を窺ひつゝある盟邦の健鬪を我等

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

は切に祈念せざるを得ない。

東と西を連ねて苛烈なる戰局の歸趨はいまや國民的鬪志の如何によつて決せられんとしてゐる。最後の勝敗の岐れ目は眞に紙一重である。最後迄耐へ拔くものが眞の勝利者となる。炳乎たる　大詔の下聖戰の眞義に徹せる一億國民は、死鬪なほ久しきに亘るとも、必勝の信念を堅持して戰ひ拔かなければならない。

第二、世界戰局の現況

日獨樞軸側より見た現世界戰局はまことに容易ならぬ難局に際會しつゝあるといへる。しかし敵の出方に對する我が萬全の方策によつてこの難局を逆轉し、敵を制しうると考へる。

（一）歐洲戰局

イ、獨ソ戰線

去る十二月二十四日クリスマスを期して開始されたソ聯軍の冬季攻勢はその後益〻積極的となり、殆んど豫備兵力の全部を第一線に注入し、獨逸軍を徹底的に粉碎せんと企圖してゐる模樣で、獨軍もその兵力の大なることに驚嘆してゐるほどである。

これがため戰線は忽ち西方に轉位し、クリウォイ・ログよりキーロヴォグラードを經てジドミールの南ベルディチェフに至る約五百粁の弓狀をなし、その北屈曲部では既に舊ポーランド國境線を突破し、若干進出を見せてゐる。また南屈曲部ではブク河の線に迫り、漸次南部ドイツ軍を包圍分斷するの態勢を示さんとし、戰局は獨逸軍當局も認める如く『重大なる事態』を現出するに至つてゐる。

ソ聯軍今次の攻勢を見るのに、米英に對する第二戰線要求に關係なく自主的に攻勢を採りつゝあることは明かで、ソ聯軍としては少くも一九四一年獨ソ開戰前の境界線回復を目的としてゐるものと思はれる。

これに對し、獨逸軍は全主要戰區において巧妙な攻勢防禦作戰によつてソ聯軍の突破企圖を破摧し、自からの損耗を極力避けることに努力してゐる。現戰線を突破せられる場合においては作戰的には、重大な影響はないとしても、北フインランド、南ルーマニヤの離脱を來たし、政略的に受ける打擊は多大である。かかる點から獨逸軍としては極力現在の戰線確保に努めるものと思はれる。獨逸軍の作戰指導を見るとこの攻勢に對しては相當の自信を有するものの樣である。よしんば最惡の事態となるにしても一九四一年の線は確保すべく、これがため獨逸が崩壞する如き事態は萬なからうと考へられる。これはまた來るべき米英の第二戰線結成と極めて微妙な關係にある。

ロ、イタリヤ戰線

『クリスマスまでにはローマへ』の宣傳も何處へやら、反樞軸軍のイタリヤ侵略は獨逸軍の果敢なる反擊に遭つて遲々として進まず、イタリヤ第一線にある米軍將兵の士氣は著しく低下してゐるとのことである。この原因と認められるものに、獨逸軍戰術の卓越性、獨逸將兵の敢鬪精神はもとよりのこと、殊にサレルノ附近上陸作戰に當つて、米國第五軍が獨逸軍のため殲滅的打擊を受けんとした精神的恐怖觀が爾後の戰局に大なる影響を及ぼしてゐることを見逃してはならない。これはニューブリテン島マーカス岬附近敵上陸に當り我が小森部隊がこれに猛烈な反擊を加へ、この方面の敵の作戰企圖を挫折せしめたのと軌を一にする。敵軍特性の一つと見られる。

ハ、バルカン方面

獨逸は相當の兵力をバルカンに駐屯せしめ、敵の侵入作戰に備へるとともにユーゴー・スラヴィア殘存匪賊の掃蕩戰を續けてゐる。

敵のバルカン侵入は早くから噂されてゐるが未だに實現されない。これにはソ聯との政略上の微妙な關係が一つの原因とも見られる。從つてバルカン作戰なる

ものは將來第二戰線結成と相前後して行はれ、しかもこれにはトルコに對する事前の政治謀略の隨伴することが豫想せられる。トルコは從來から屢〻參戰を强要されてゐるが、トルコ自體は自動車一臺すら製造しえず、石油の一滴すら出ない國であるだけに、戰局が將來米英側に餘程有利となる場合の外は依然中立政策を固守するものと考へられる。

ニ、第二戰線問題

敵米英の歐洲侵入作戰近しとの報頻りに喧傳される今日、これに對する獨逸側の防備を、今、デイリー・エキスプレス紙の兵力判斷によつて見ると次の如くである。

獨逸側は——

東部戰線に百五十個師、ノルウェーに十個師、デンマーク、ポーランドに十五個師、北部ドイツに十個師、フランス、ベルギー、オランダに五十個師、イタリヤに十個師、バルカンに十個師、豫備四十五個師。

反樞軸側——

英本土英軍五十個師、米軍百五十個師(?)、カナダに二十個師(?)、その他五十個師、イタリヤに二十個師、北阿に三十個師、佛軍十個師、シリア、パレスチナに三十個師。

一月七日獨逸軍當局は北歐のナルヴィックからピレネー山脈に到る歐洲西海岸數千キロの防備狀況を詳細に發表し、敵の第二戰線結成威嚇宣傳に應酬してゐる。事實、獨逸軍の防備は完全に近く固められ、これが指揮にロメル將軍が當つてゐる。東部戰線重大化の折にも拘らず、この方面の兵力を一兵もこれに轉用してゐない。

これに對する敵米英の第二戰線結成であるが、察するに米英の腹は成るべくその實施を延引し、獨逸軍がソ聯軍によつて十分痛められまた空襲によつて一層多

大の損害を獨逸に與へ得た後、最短距離から歐洲上陸作戰を行ひ、以て戰後處理に對する發言權を確保せんとするのではないかと考へられる。一面ソ聯としては果敢な攻勢を行つてはゐるが、その國内は愈〻窮迫し、情勢は一日の遲延を許さなくなつて居り、ここに米英に對するソ聯の援助要請となり、モスクワ、テヘラン會談の運びとなつたもので、敵米英としては第二戰線結成について確約を與へたものと判斷すべきであらう。その實施の時期は二月説、三月説、五月以降説など種々噂され、何づれとも判斷し得ないが、この上陸作戰には兵力五百萬、機械化師團五、六十個師、飛行機一萬機以上を要するとも稱せられ、これが上陸準備殊に船舶關係から見て相當遲延するのではないかと考へられる。しかし獨軍當局は近しと判斷し萬全の對策を進めてゐる。

何づれにしても、第二戰線結成は獨逸軍の强烈な反擊を受けることを覺悟しなければならないので、敵米英としても死活の決戰である。

ホ、獨逸の抗戰力

獨逸の人的動員は今や極限に近く、軍需生産方面に外國人勞務者八百萬を利用してゐるといはれ、歴史上空前の勞働力を發揮してゐる。これがため石炭、石油、鐵鑛、電力等の基礎工業力は開戰後愈〻能力を向上し各種軍需生産は依然として高生産水準を維持してゐる。しかしながら獨逸の戰爭遂行上最大の惱みは人的資源である。これが東部戰線の作戰指導に多大の影響を及ぼしてゐることが頷れる。

前大戰に比べて最も違ふものは食糧の確保されてゐる點と物價の安定してゐる點であらう。それにヒットラー總統の政治力は依然確固不動といふべきである。最近頻繁な敵の獨本土猛爆擊が獨逸國民に少からざる損害を與へてゐることは爭へない事實である。しかし軍需生産方面に對する損害は割に少く一、二割の程度と思はれる。重要工場、機械設備等の防空施設は十分强化され、これは勇敢な必

死の爆撃を企てぬ限りその機能を阻害することは不可能な狀態になつてゐる。最近、獨逸防空部隊の對抗戰備も著しく向上し、去る一月十五、六兩日の敵空襲に際しては一擧に百三、四機を擊墜し、敵側に致命的な人的消耗を拂はせてゐる。

要するに獨逸としては、歐洲戰爭の主動權を回復し得るや否やは懸つてソ聯軍を何處の線で防止するか、第二戰線に對し如何なる程度の反擊を與へ得るかによつて決せられる。吾人は飽くまでも盟邦ドイツに信頼し、その必勝を期せねばならない。

（二）大東亞戰局

日本に對する敵殊に米國の作戰企圖は北アリューシャン、中部太平洋、南西太平洋、濠北、印度の五方面から我を包圍し、逐次この包圍圈を壓縮するとともに要地に對する空襲を强化し、海上交通の遮斷に努め、以つて今年末頃までに我に決戰を强ひんとするにあるものと思はれる。

以下各方面の戰況を概說してみよう。

イ、キルバート方面

昨年十一月下旬マキン、タラワに上陸した敵はハワイ、中部太平洋艦隊所屬の部隊と判斷される。目下爾後の攻勢準備中の模樣である。

ロ、南西太平洋方面

昨年十一月一日ブーゲンビル島トロキナ附近に上陸した敵は現在一個師團內外、飛行場は既に三個設定し終り、飛行機百機內外を着陸せしめてゐる。我が部隊は寡兵劣勢の裝備を以てこの敵と對戰しつゝある。敵はここを足溜りとしてさらに次ぎへの前進を準備中であると判斷される。

ニューブリテン島方面においては去る十二月十五日マーカス岬に約三、四個大隊の敵上陸、これに對し我が軍は果敢な反擊を加へ、多大の打擊を與へ得たが、敵は海岸、島嶼に火砲を增援し、我に猛射を浴せたため、我が軍の損害も少から

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ず戦況は停頓狀態にある。

さらに十二月二十四日ニューブリテン島西端附近グロースター岬附近に敵は上陸し來り、現在その兵力は約一個師團と判斷される。一月十四日、三角山、萬壽山を繞り彼我の激戰展開されたが、敵の猛烈なる砲爆擊のため我が軍は著しく不利となつた。殊に補給に困難を來してゐる。

ハ、ニューギニヤ方面

一月二日敵は我がカラサ附近集結部隊の後方に當るグンビ岬附近に上陸し來つた。この方面の我が部隊は敵の優勢なる制空權下、補給に困難しつゝある。

ソロモン、ニューギニヤ方面ともに敵は常に二、三十萬噸の船腹の餘裕を存してゐる。從つて一個師團位の兵力は我が防備の間隙に乘じ上陸を實施し得る情況にある。

ニ、濠北方面

この方面の敵軍の行動は餘り活潑ではない。

ホ、印度方面

印度カルカッタ以東に敵は十五個師團の兵力を有するが、敵の行動は餘り積極的ではない。これに反しアンダマン、ニコバル諸島方面に對する敵の活動は活潑である。

支那大陸は米英空軍の基地として今後愈〻その價値を向上するものと考へられる。我が航空部隊昨年中の擊墜數は三百七十機であつたが、今後益〻空中戰は激化することであらう。殊にB29の現出は大陸基地の利用價値を增大するものと思はれる。

ヘ、滿ソ方面

その後の情勢は依然變化がない。

ト、アッツ、キスカ島方面

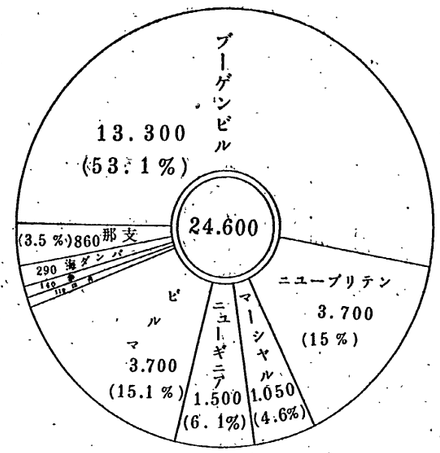
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

その後敵は防備を強化擴充してゐる。

以上、大東亞戰爭各方面の戰局を概觀した。敵の本格的反攻作戰は既に一年餘に亘つて行はれてゐるが、我が第一線將兵の超人的決死敢闘によつて、若干の島嶼に敵の上陸を許したものの、大勢は依然として確保されてゐる。緒戰の華々しい電擊戰期に比べ、戰勢が押され氣味であるのは爭へない事實である。これは外ならぬ敵の航空兵力の優勢なため、我が船腹の不足なためである。このため我が方は甚しく補給に困難を來し、作戰が意の如く進捗せず、實に切齒扼腕しつゝある。戰局打解の道は一に飛行機と船舶以外にはない。

飜つて彼我全般の戰略、政略兩態勢を大觀するのに、日獨ともに自給自足の廣域圏を確保し、これを立脚地として戰爭を遂行してゐる。現在の第一線は敵の戰力を消盡せしむるに最も好都合に配置されたる地形的存在で、我が方は飽くまで內線作戰の妙を發揮し、戰時持久の目的を達成し、その間着々戰力の飛躍向上に

昭和十八年十二月中敵機來襲延機數（陸海共ニ入ル）



奮闘努力し、以て敵の勞に對し我は蓄積せられたる戰力を以て最後の勝利を占めなければならない。これはまた吾人の超人的努力によつて必ずなし遂げ得られることである。

この戰爭は勝つか、敗けるかではない。勝つか亡びるかの戰である。斷じて敗けられない戰である。必勝のためには必勝の信念とこれに對する努力を失つてはならない。

敵米英の國內情勢を見ても日に日に戰爭の重壓が國民に加重されてゐ

る。最後の勝敗は第一線よりもむしろ銃後の頑張りである。

第三、テヘラン會談前後

昨年十月十九日から三十日までモスクワに開催された米、英、ソ三國外相會談はルーズヴェルト、チャーチル、スターリンの三國首腦會談に對する下準備と見られてゐた。モスクワで米英は專らソ聯の意を迎へるに汲々とした結果、スターリンも遂にこれが參加を納得したものの如く、イランの首都テヘランにおいて十一月二十八日より四日間三首腦會談が實現した。

このテヘラン會談に先んずること一週間、十一月二十二日より二十七日に至る間カイロで、ルーズヴェルト、チャーチル、蔣介石の三者會談が開かれてゐる。テヘラン、カイロ兩會談は元々一會談として目論まれた如くであるが、スターリンを交へての四者會談開催といふ蔣介石の希望はスターリンの對日關係

を考慮しての拒否に遭ひ、結局政治的考慮から分割開催された。同時にカイロ會談はスターリンと會見せんとするルーズヴェルト、チャーチルの事前打合せのための會談でもあつたやうである。テヘラン會談終了後、英米側は再びカイロに到つてトルコ大統領と會談を行つた。かくて僅に二週間のうちに三つの反樞軸側會談が開かれ、何れも鳴物入りで宣傳された。

(一) 第一次カイロ會談

第一次カイロ會談については昨年十二月一日、カイロ、ワシントン兩地でその開催の事實と共に、三國共同のコンミュニケが發表された。このコンミュニケは

『本會談に出席の軍事專門家間において、將來の對日作戰に關して意見が一致した。すなはち三大聯合國は殘虐なる敵に對し、陸海空三方面より苛責なく攻め立てんとの希望を表明し、日本の侵略を阻止し、かつ日本を懲罰せんがために戰つてゐる旨確認した』

とて、戰勝を得た曉の日本に對する次の如き懲罰條件を竝べ立ててゐる。すなはち

一、日本が一九一四年の第一次歐洲戰爭勃發以後獲得または占領した太平洋諸島嶼はこれを凡て剝奪し

二、支那より奪取せる滿洲、臺灣及び澎湖列島の如きは支那共和國に返還せしめ

三、その他暴力、貪慾により奪取せる領土より日本を驅逐し

四、朝鮮を適當なる時期に自由獨立せしめる

といふのがそれである。

三國はこれがため

『日本を無條件降伏せしめるべく、困難かつ長期の作戰を辛棒强く繼續すべし』

との『決意』を示してゐる。

この會談には軍事外交專門家約三百二十名が出席したと稱されてゐるが、マックアーサー等現地軍司令官が出席して居らず、對日戰略に關し協議したと云ふよりは單に攻擊の希望を表明してゐる點から見て寧ろ政治的效果を覗つての謀略會談であつたと見る方が事實に近いであらう。

この政治的效果と云ふのは

一、戰勝を假定しての日本懲罰を高言することにより樞軸、中立諸國に對する神經戰を企圖する。この反面、

二、英米は蔣介石の要求をそのまゝ採り上げることによつて重慶を鼓舞激勵しその脫落を防止する

の二點にあつたと云ふべく、これがこの會談の山である。

問題となるのはこの所謂對日懲罰條件であつて、日本を明治以前の狀態に押し込め、農業國に轉落せしめ、その工業發展を抑へて永遠に海洋國英米及び大陸國

支那に依存せしめんとする（バーミンガムポスト倫敦電）如き條件が日本に如何なる效果を與へるか、この點に關して英米は重大な誤算をしてゐるとの印象が中立國筋においてさへ傳へられてゐる。

すなはちスウェーデン新聞アフトン・ブラデット紙は『カイロ會談公表の根本的失策は日本を本來の島國に追放する約束をしたことである』とその短慮を戒め、『過般米國軍の一高官が華府において我々は戰後日本本國に住み得る日本人の數以上には日本人を殘さぬ積りであると放言したこととともに、日本をして必死の戰爭に團結せしめる結果とならう。しかもこの公表は印度、支那その他東亞における英國屬領に關し何等積極的な計畫を示さなかつた』とその失敗を鋭く突いてゐる。結局、この會談は蔣介石に對する米英の表面的迎合に終つたと見るのが正しいであらう。

（二）テヘラン會談

かくてカイロ會談で重慶を納得せしめたルーズヴェルト、チャーチルはその後イランのテヘランに赴き、去年十一月二十八日から十二月一日に至る四日間、スターリンと會談するに至つた。英米の待望久しかつた三者會談が實現を見た譯である。

英米側がこの會談を如何に重大視してゐたかはその出席隨員の物々しい顏觸れにも覗ふことが出來る。すなはち左の如く陸海空三軍の首腦がずらりと顏を竝べて參加してゐる。

ソ聯—外務人民委員モロトフ、ヴォロシーロフ元帥

米國—大統領特設顧問ホプキンス、駐ソ大使ハリマン、陸軍參謀總長マーシャル陸軍大將、海軍軍令部長兼聯合艦隊司令長官キング海軍大將、陸軍航空部隊司令官アーノルド陸軍大將、陸軍補給部隊司令官ソマーヴェル陸軍中將、大統領附總參謀長リー海軍大將、遣ソ米國軍事使節團長ディーン少將

英國―外務大臣イーデン、駐ソ大使カー、陸軍參謀總長ブルック陸軍大將、海軍軍令部長カニンガム海軍大將、空軍參謀總長ポータル空軍元帥、國防會議附幕僚長イズメイ陸軍中將、在華府合同參謀本部英國側代表ディル元帥、遣ソ英國軍事使節團長マーテル陸軍大將

なほマックアーサーはこの會談にも出席せず、マウントバッテンはカイロ會談には參加したが、その後ただちに印度に歸つたらしく、この會談には出席してゐない。

この會談に關しては十二月六日對獨三國共同宣言及びイランに關する宣言が發表せられ、それが主として對獨戰遂行に關し協議したものであることを示してゐる。すなはち對獨共同宣言の謳ふ處によれば左の如くである。

（イ）三國は數世紀に亘る平和の最高責任を擔ふものであり

（ロ）三國は戰時中竝びに戰後の平和期において協力すべき決意を披瀝し

（ハ）三國軍事專門家は圓卓討議に參加して、獨逸軍を擊滅すべき計畫を協議し

（ニ）東、西、南より行はるべき作戰の規模と時期につき完全な意見の一致を見た

公表された宣言によると、以上の如く主として第二戰線の開設に關する時期と方法を主要議題としたものと思はれるが、この他、當然日程に上るべき問題としてソ聯の戰後國境問題と獨逸降伏後の取扱ひがある筈である。しかしソ聯の國境問題はその解決が最も困難な問題であり、かつ會議日程が僅に四日であつたことから判斷して、これには觸れなかつたものとみられる。ただ三國の平和擔當責任を云々してゐる點から見て一應の話合をなしうる段階には到達したものの如くである。獨逸の戰後處置については日本の場合と異なり全く發表されなかつたが、このことは歐洲における勢力均衡に重大關係があり、利害錯雜を極めてゐる點か

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ら見て、一應これに觸れたとしても、容易に意見の纏りやうはなかつたであらう。結局本宣言が、三國による平和擔當の責任を强調してゐる如く、その指導權を認め合つたと云ふに止り、當面の對獨攻擊の激化を唯一の主要議題としたものの如くである。

第二戰線の問題はすでにモスクワ會談で原則的諒解に達したといはれ、英米も相當程度の言質を與へたらしく、これを餌に宣傳效果を覗つてスターリン釣り出しを策し、スターリン自身もまた英米利用の魂膽から腰をあげてわざ〳〵出發した點、この會談では相當具體的に話合が進んだものと見なければならない。

この會談で同時に發表せられたイラン宣言は、三國とイランとの關係に關し、開催地に對する儀禮的意味から發せられたもので、要するに三國はイランの獨立、主權、領土保全を尊重することを明らかにし、かつ經濟的援助を約し、その戰爭遂行への協力をさらに求めたものである。しかしこの宣言の意味は全く別の點にあつて、三國はイランにおける特殊利害關係とその勢力暗鬪の事實を認め、互に他を制肘せんとする意圖に出てゐることは明らかである。

さてテヘラン會談の國際政局に對する意義はどこにあるのであらうか。

第一に注目すべきはルーズヴェルト、チャーチルが多年念願のスターリンとの三者會談を遂に實現し得たことで、それ自體當面の政治的效果は大きい。さらにスターリンをして三國協調の宣言に署名せしめたことはソ聯との協調を熱望するルーズヴェルト、チャーチルの成功と見られ、ソ聯がこれを拒み得なかつたことは或る意味でソ聯の弱味を示したものといふことも出來る。

從つてこの結果、英米は獨ソ單獨講和の可能性を封ずるとともに、兎角面白からぬ空氣を釀す英米とソ聯との關係につきその懸念を一掃せんとして三國の友好協調を高らかに謳ふことが出來た。ソ聯としてもこれを機に英米における對ソ不信の空氣を緩和し、戰後問題について言質をとられることなしに第二戰線結成に

關し英米の確約を買ふことが出來たことは相當の收穫といはなければならない。しかしその反面、この會談は上述の如く三國間の根本的政治問題については何ら觸れる處なく、當面の必要に出でた表面上の結束を齎したに過ぎない點からいへばお座なりに終つたといふことも出來よう。

第二に問題となるのは第二戰線展開に關し一應具體的に話合が進んだことで、この會談を契機として近き將來における第二戰線の設定は最早確定的と見られるに至つた。このことはテヘラン會談に對するソ聯側の反響がモスクワ會談當時より一層積極化してゐる事實からも裏付けられる。すなはち黨機關紙『プラウダ』の如き

『モスクワ會談は戰爭終結の促進を目的としたものであるが、今次會談は獨軍兵力の潰滅計畫を議したもので、今や最終的結末に移つた』

と論じてゐるのがその例である。

この會談後、第二戰線の展開は九十日後であるとか、遲くも五月頃までには實現するとか英米は說く一方、そのためには五十萬の兵力の犧牲をも敢へて辭せぬ旨を述べ、ルーズヴェルトもそのクリスマス演說で

『英米はさらに他の方面から强力な攻擊に出でるであらう。その方面の攻擊の總指揮はアイゼンハウワーが執る』

と揚言してゐる。これらの點から見て何らかの動きの起るのは必定であらう。しかし西南方面から獨逸軍を攻擊するには少くとも五百萬の軍隊及び五、六十個師の機械化部隊の揚陸と一萬臺以上の飛行機が必要であると云はれ、その準備には最少限度二三ケ月は掛るとされてゐるから船舶の問題等實際には容易ならぬ困難が伴ふ。その上萬一失敗を喫するならば英國は却つて致命的な打擊を受けるであらう。翻つてこれに對する獨逸側の作戰は邀擊に萬全の準備を整へてゐるものの如く、大西洋要塞の防備は頗る堅固なものありとも傳へられてゐる。從つて第二

戰線は英米の謳ふ如く簡單には實現されないであらう。

第二次カイロ會談によりトルコに對し一段と壓力が加へられたことはバルカン方面に據點を設けんとするが如き米英の魂膽を現はして居るとも見られる。

（三）第二次カイロ會談

テヘラン會談終了後、ルーズヴェルト、チャーチルはカイロに至り、昨年十二月四日より六日に亘り土耳古大統領イノニューと會見した。この會談に參加した顏觸れは、右三人の他隨員として、

英國側—イーデン外相、近東軍總司令官ウィルソン大將

土耳古側—メネメンジョーグル外相等十五名

米國側—ハリー・ホプキンス

等であつたと傳へられてゐる。

反樞軸側がバルカンの一角、亞歐の連絡路、黑海の入口を扼するトルコの自己

陣營に立つての參戰を望むこと久しく、トルコの中立政策を繞つて英獨の謀略的角逐を傳へられること屢々であつたが、トルコは依然中立を保持し續けた。歐洲の情勢漸く逼迫を告げ、第二戰線問題が土壇場に追ひつめられるにつれ、英米側のトルコに對する參戰希望の聲は愈々强く、昨年十一月初旬イーデン外相はカイロに至りメネメンジョーグル外相と會見、英ト間同盟條約を楯にさらに强硬に參戰を求めた。

しかしこの會談でもトルコの中立態度は動かなかつた。ここにルーズヴェルト、チャーチルは、テヘラン會談における英、米、ソ三國共同の壓力を以てトルコの中立放棄を一擧に求めんとし、スターリンの諒解をも得たものの如く、かくて、第二次カイロ會談の開催となつた。

この情勢に當面して、トルコ大統領イノニューはトルコの單一政黨たる中央黨側と事前の協議を重ねる等頗る愼重な態度で會談に臨んだ。會談に際し、トルコ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大統領はルーズヴェルトに對しトルコの參戰が必ずしも反樞軸側に有利でなくかつトルコは參戰に關する物的、精神的準備が出來てゐない旨を力説し、説得に躍起の努力を拂つたものの如くである。

蓋し、トルコは東地中海における一般情勢、特に英空軍力の不充分なること及び最近行はれた獨逸側の多島海島嶼占領、イタリヤ戰線の膠着狀態を眺め、かつ自國軍の機械化裝備の貧弱なるを思ひ合はせては、いま直ちに參戰せば忽ち獨逸側の電擊を受け、徒らに自國民を戰爭の慘惱に曝らすこととなるから、これを極力回避せんとするのは當然であらう。

隨つてトルコはこの會談でもなほ參戰を承諾しなかつた模樣で、これはトルコ外相の十二月九日の中立不變の聲明により明らかとなつた。しかし、トルコが飽くまで嚴正中立を變更せぬといふことでは英米側が滿足する譯はない。かつイーデンが十二月十三日議會の演説で、

『第二次カイロ會談の討議內容については發表し得ないが、この會談により、英、米、ソ、土四ケ國間の協力の基礎が確立した』

と述べてゐることに徵しても將來の參戰に關しある程度の言質を與へたであらうことは疑ひない。すなはち英米ソが東、西、南の三方面から獨逸攻擊を行ふ場合、その基地の利用を許容し、機を見て參戰せんと約したと見るのが穩當で、それまでは戰爭に至らざる程度と方法とで反樞軸側を援助せんといふ程度であつたらう。結局今後のトルコの動向を左右するものは戰局の進展如何にあると見られる。

第四、東歐を繞る英米ソ關係

歐洲戰局の中心が東部戰線、南伊方面ともに東歐に向つて次第に接近するにつれ、この方面に錯雜した利害關係を有する英米ソ三國が戰後の覇權を目指して暗

躍しつゝこの方面に關する戰後處理問題が重大な政治問題として危惧せられるに至つたことは最近の顯著な事實である。

英米は夙に獨逸の再興を抑へ、ソ聯に對する緩衝の役割を果たすものとして、東歐聯邦制の實施を目論んでゐた。これに對し、ソ聯は自己を盟主にする集團安全保障制を企圖し、東歐各國に友好政權を樹立し、これと個別的に相互援助條約を結ばんとの態度に出でて對抗してゐる。

從つて、英米としてはモスクワ、テヘラン兩會談等でも、これに意識的に觸れまいとし、當面の結束の必要上問題の解決を一歩一歩と先へ延ばさうと努めて居るが、それだけあつて問題の重大性は充分認めてゐるもののやうである。

最近の東歐諸小國問題例へばユーゴー・スラヴィアにおけるチトー政權の問題、ソ聯亡命チェコ政權間相互援助條約問題、ソ波國境問題等何れもこの點に觸れる問題であるが、その結果及び成行から見るとソ聯の實力と巧妙なる政略との前に英米は歩一歩讓歩屈伏を重ねてゐるのが現在である。

（一）ソ聯・亡命チェコ政權間相互援助條約

去年十三月十日モスクワにおいてソ聯當局とベネシュ亡命チェコ政權首相との間に友好、相互援助、戰後協力條約が調印され、東歐將來の動向に關聯して世界の注目を惹いた。この條約の內容は左の通り。

一、對獨戰における軍事援助及び不休戰、不講和の約束

二、獨逸將來の東方進出を抑止するにつき協力すること

三、廣汎な經濟提携と內政不干涉を約したこと

四、雙方とも相手國に對抗する同盟に參加せざる旨の約束

五、有效期限　二十年

この條約は一九四二年に締結された英ソ同盟條約に類似し、諸外國に對するソ聯の援助條約の類型の一つと見られてゐる。

すでに一九四二年五月モロトフソ聯外相が英國を訪問した際、イーデン英外相との間に、

兩國は豫め協議の上合意が成立するに非ざれば歐洲亡命諸政府との間に條約、協定の如きものを一切取り結ばず

との約束を交はしてゐる。これは英國側が提案し、モロトフの贊成した取極めである。今回成立した條約は明らかにこの取極めの破棄である。ロンドンに在る亡命チェコ政權首班ベネシュは夙にソ聯と戰後問題につき協議するためソ聯を訪問したい希望を懷いてゐたが、英國側は努めてこれを抑へる方針に出てゐた。蓋し前大戰後獨逸の牽制と、勢力均衡を意圖してチェコの創設に奔走したのは英國であり、今日の戰爭勃發の有力原因をなしたのは獨逸側のこれに對する攻擊であつたから、若しお膝下の亡命政權が恣意的にソ聯と諒解を遂げることがあれば、その威信にも拘はり、かつ東歐における戰後の勢力圈確保にソ聯の容喙を來すこと

となるのを恐れたからである。

英國側從來のこの希望にも拘らず、ベネシュは昨年十二月十一日モスクワを訪問、モロトフ外相と會見の上、この條約が調印された。これには英國側に大きな心境の變化があつたと見なければならない。

この變化は過般のモスクワ三國外相會談において起つたもので、英米がソ聯との協調達成を焦るの餘り、如何に唯々としてその要求を受け容れたかが知られる。勿論、この裏面には英國側の苦境とソ聯の東部戰線における餘裕綽々たる健闘振り、東歐における政治的暗躍等、國際情勢の變化が與つて力があるのは云ふまでもない。

しかし、すでにこの條約を認めた以上、英米はソ聯の東歐進出を容認し、この方面におけるソ聯將來の發言權を認めたも同樣であつて、これは明らかに英國の意圖する東歐聯邦案の完全な敗退であり、ソ聯にとつては今後チェコに對しても

著しくその勢力を滲透せしめる可能性が生じた。爾餘の諸小國にしてこの條約に参加を望む者あらば、これを拒まずとソ聯側が言明してその勢力擴大を圖つてゐることは英米側にとつては一層の脅威といはねばならない。

イーデンは去年十二月十四日の下院演說において、

『本條約は歐洲の一般安全保障機構制度を脅威するものに非ず。かつこれはすでに英ソ間に諒解濟のものである』

と述べてゐるが、かかる說明こそ却つて英國政府或ひは國民の危惧を暗示するものといはなければならない。

（二）ユーゴースラヴィアにおける假政府設立

一九四一年獨伊軍のユーゴースラヴィア侵入とともに國王ピーターは英國に蒙塵、亡命政權を樹立し後圖を策し、ミハイロヴィッチ陸相の率ゆるゲリラ軍はバルカンに遊擊戰を展開してゐた。この間に突如出現したのがチトーのバルチザン軍である。

チトーのバルチザン軍はソ聯の操縱下にバルカンの治安攪亂に狂奔し、次第に勢力を持つに至つた。ユーゴーはその人種的軋轢、地勢の困難、中產階級を缺き貧窮せる農民が人口の大部分を占めてゐる點等から、かかるバルチザンの猖獗には格好の舞臺を提供し、獨逸側もその掃蕩には相當手古摺つてゐた。

チトー軍の擡頭とともに、ミハイロヴィッチ軍は旗色惡く、その間屢〻衝突相剋が傳へられたのは英ソ胸中の角突き合に發する處で、避くべからざるものがあつたであらう。英國は勿論公然ミハイロヴィッチ軍を後援してゐたので、ソ聯はこれに抗議を發する有樣であつた。

しかるにその後英國は漸くチトー軍援助に決し、このため昨年六月以降亡命ユーゴー政權內閣はシモヴィッチ、トリフノヴィッチ、ブーリッチと頻りと交迭し、英、ユーゴー間の空氣は氣まづいものがあつた。かかる間にあつて突如昨年九月

アジア経済研究所資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

國王ピーターが亡命政權所在地をカイロに移したことは暗默のうちに發した英國への抗議と見られた。

その後ソ聯はチトーをして國王の歸國を勸說せしめる等英國に對する巧妙な外交政略の手を打つてゐた。昨年十二月四日ユーゴー領土內で開かれた議會の決議により、所謂自由ユーゴースラヴィア假政府の設立が決定し、ソ聯はこれを唯一の政權として承認するに至つた。

この假政府には共產軍統率者チトーが國防委員長として加はつて實權を握り、首班には前大戰直後ユーゴー最初の立法議會會長であつたクロアチア人イワン・リバールが据ゑられた。

英外相イーデンは十二月十四日の下院演說で英國とこの政權との關係につき、

『英國はチトーに對し軍事資材を提供し、凡ゆる方法で支援を行ひ、今春にはチトーの下に英國將校を派遣してゐる。ユーゴーにある英國代表部は下院議員マックリンを代表とし、チトーと良好なる關係を確立してゐる。ソ聯もチトーの下に軍事代表を派遣するに決し、モロトフ外相は英ソ代表部の協力を約してゐる。しかもチトー政府は一時的のものであつて、英國政府に承認を求めてきてはゐない。ユーゴー人が解放せられた曉には彼等はその欲する政府を撰擇し得るのであり、これは英國政府の見解であるとともに、ピーター國王の希望でもある。我々はピーター國王の現在の境遇には深甚の同情を有するものである。』

と、將來につき留保を行ひつゝもチトー政府容認を示唆してゐる。この後英米は十二月下旬に至りチトーをユーゴー方面反樞軸軍總司令官に任命、ミハロイヴィッチ軍をその指揮下に入らしめ、戰線統一を圖るとともに、苦しい妥協策を行つた模樣である。玆にも英米のソ聯への屈從が見られるといはなければならず、東歐各國の亡命政權が次第に英國の膝下を離れ、ソ聯の傘下に移らうとする傾向の一つの現はれと見なければならぬ。

なほこれと關聯して注目すべきはギリシアにおける赤色臨時政府樹立の報及び北阿におけるソ聯の活躍が傳へられることであるが、詳細は他日に讓る。

（三）　ソ波國境紛爭

昨年二月、ソ聯の冬季反攻作戰が意外の進展を示した際、在英波蘭政權が大西洋憲章における領土不變更、被侵略國民に對する主權自治の回復等の條項を楯に戰前の國境線を要求する聲明を行つてから、ソ波關係は急激に惡化し、ソ聯政府は三月タス通信社を通じ、同樣、大西洋憲章における諸民族の民族的權利を承認する條項を援用し、これに反駁を行ひ、ウクライナ、白ロシアのソ領編入を要求した。

英米はこの間に挾まつて進退兩難の窮地に陷つたが、專ら波政權を慰撫抑壓しソ聯を刺戟することをひたすら恐れてゐる有樣であつた。

ソ波關係は一九三九年の獨ソ兩國が波蘭を分割して以來斷交狀態にあり、波蘭

側の強い對ソ反感等より見て英米の斡旋なき限りソ波關係は惡化ずる一途であり、これが紛糾の赴くところ、反樞軸陣營分裂の因とならぬとも限らない。かかる事情から、英米は波政權抑壓に終始したが、さりとてその要求を全く默殺するならば、自ら宣布した大西洋憲章を自ら蹂躪することとなり、亡命中立諸小國に對する影響も少くない。

かくしてソ波關係は何等打開を見ずに一ケ年を經過した。今次反攻作戰の進展とともにソ聯軍が舊波國境を越えるに及んで、本年一月五日波政權は聲明を發し、飽くまで大西洋憲章に基づく領土權を主張した。これに對し、ソ聯政府は一月十一日タス通信を通じソ聯の强硬態度を闡明し、波政權はチェコと同樣ソ聯と友好條約を締結すべきことを懲懲するとともに、國境問題については一九三九年の國民投票による境界を堅持し、一九一九年英國政府の示唆したカーゾン線に沿ひ國境を定むべき旨を提案し、若しこれを容れる場合にはソ波友好關係は直ちに促進

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

されるであらうと說いた。

この提案に接し波政權は頻々と閣議を開き、その對策を練つた模樣であるが、またソ聯はさらにモスクワに在る波新聞ウォルナ・ポルスカをして

『波蘭が强力なる獨立國たるためには、獨逸に對する戰略上の地位を固め經濟的發展の基礎を確立することが肝要であるが、そのためには國境を西方に擴張すべきである。』

として、獨逸領土中の東プロシア、ダンチヒ、シレジアの一部を與へる代りに一九三九年ソ聯により占領せられた以東の西ウクライナ、白ロシアを含む東ポーランドはソ聯領にすべき旨を示唆してゐると傳へられる。

目下の處、波政權は英米を交へての四ケ國會議を提案し、ソ聯はタス通信をして同提案は非友好的なりと一蹴せしめ、ここに何等打開の模樣は認められなくなつた。ソ聯の强硬態度と英米の迎合政策に照し合はせて見ると、結局英米の斡旋

によるソ波直接交渉により、ソ聯側の提案が認められることとなるであらう。

しかしこの問題を繞つてテヘラン會談であれ程友好を强調された米ソ間の空氣が再び惡化したことは注目される。共和黨領袖ウィルキーは一論文においてソ聯の擴張政策とソ聯に牛耳られてゐるワシントンの外交政策とを非難し、プラウダ紙がこれを攻擊したことも手傳ひ、米國新聞は無遠慮なソ聯非難を浴せてゐる。

これは米國內の反ソ感情が何等緩和されず、從つてテヘラン會談では米英ソ三國が歐洲政治問題につき何等諒解に達しなかつたことの證左であるとも見られてゐる。

第五、南阿聯邦首相スマッツの演說

ロイド・ジョーヂの所謂『現代大政治家の一人』南阿聯邦首相スマッツは、一昨年北阿に對する英米の上陸作戰に際しても英米側の戰略に言及し、重大な意見の提

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

示を行つた。その後昨年十月モスクワ三國外相會談に當つても一九四四年における第二戰線展開と米國の重大役割を力説する等、その言動は英國政府部内の有力意見として頗る注目されるものがあつた。

昨年十一月二十五日、英國議會議事堂に開かれた英帝國議員協會英本國支部會員の私的會合で行つた『新世界の構想』と題する演説もまた甚大な反響を呼び注目を惹いた。今その内容を少しく紹介してみよう。

スマッツは先づ國際政局の考察に當つて、一般に陷り易き二つの危險、すなはち情勢を單純化せんとする危險及び標語に囚はれる危險を指摘し、この危險から脱れるため英國の經驗主義的方法により問題を一歩一歩解決せんことを慫慂する。その意味する處は前講和會議が過度の單純化を行つたため國際政局の處理に失敗したこと、從つて今後の戰後處理に當つては先づ休戰協定締結を以つて一應滿足し、錯雜せる問題解決には徐々に長い研究調査を經なければならぬとの意見を主張するためであり、民主主義原則に囚はれることなく、これに指導者原理を程よく混ぜ合はせることの必要を力説するためでもあつた。

この前提はさらに發展し、國際聯盟至上主義に對する反省となつた。英國の國是であつた勢力均衡政策は、苦い經驗を味つた後、前大戰後には世界的安全保障體制を目論む國際聯盟の創設に發展したが、かかる理想主義は所詮實力の問題を逃れ得ぬ處であり、實力なき平和は夢に過ぎず、實力こそ根本の問題であることを今回の戰爭は最大教訓として示した。從つて來るべき新世界の安全保障組織には自由と民主主義との確立が必要であるのみならず、指導者主義と實力とについても備へる處がなければならない。すなはち國際聯盟の如きものは必要であるが、聯盟規約によるよりも反樞軸國の首班たる三大國に適當な地位を與へることにより、一層有效に目的を達成出來るとしてゐる。英、米、ソの所謂『三位一體』による戰時平時における世界の平和維持の提唱がこれである。

すなはちスマッツはこの三國の掌中に新國際組織の指導權を委ねることを求め、聯盟失敗の有力原因は指導權の判然せぬ處にあつたとなし、かつその規約が餘りに政治的考慮に終始し、人類間の經濟的諸條件を能率的に適切に處理できなかつた點にあるとなした（嘗ての國際聯盟萬能主義者スマッツのこの注目すべき心境の變化は興味深い）。

さらにスマッツは歐洲の具體的な問題に觸れ、歐洲は新地圖の下に異常な變化を來さんとしてゐるから古い見解は棄ててかからねばならぬとて、歐洲における三大國の消滅を言明した。卽ち佛蘭西は最早存在せず、容易に再び元の地位を回復することは出來まい。イタリヤも完全に消滅し最早大國となることはないであらう。獨逸の消滅は云はずもがなである。

しからば後に何か殘るかといへば、結局それは英國とロシアである。ロシアは歐洲の新しい巨人であり、この二十五年間ロシアに起つたことは歷史上偉大な現

象の一つである。日本帝國も一切合切無くなつてしまひ、ロシアの力は一層偉大となる。ロシアは歷史上嘗つて何れの國も占めたことのない地位を占めるであらう。英國は歷史上嘗つてなき光榮と威嚴を有し、魂の偉大さを持つに至るであらうが、物質的には一切を戰爭に傾け盡してしまふので、非常な貧乏となる。英帝國と英聯邦とは歐洲以外の存在となり、結局英國は不具となる。合衆國は測り知れぬ富と資源と潛勢力とを持つから、英米兩國は一層協力しなければならぬ。しかし兩國の聯合に餘り大きな期待を持つのは賢明ではない。三國のうち英國は米ソに比べて歐洲における力は非常に弱くなり、比較のとれぬ組合せが出來てしまふ。そこで英國はどうすべきか。英國は先づ島としての存在を止めるべきである。さらに英帝國は聯邦としての地方分權制と植民帝國としての中央集權制といふ二重組織を淸算してゆかなければならい。中立は時代遲れの考へであるから小國は飽くまで英國と對等な仲間として立場を同じくしてゆかなければならない。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

この樣にしてスマッツの演說は英國の帝國主義組織に對する一大反省を以て結ばれてゐる。

以上のスマッツの演說の內容は一週間も外部に發表されず、漸く昨年十二月三日に至り英國の新聞に揭載されたが、その反響もまた頗る大きく、到る處に物議を釀した。

何より問題となつたのは佛國は消滅せりとの言明で、これは佛蘭西國民解放委員會の不滿を買つた。さらに伊太利の消滅を豫言したことはバドリオ一派をして何のために裏切り、何のために戰ひを續けてゐるのかを疑はしめるに充分であつた。

また、當時カイロまで出向いてゐた蔣介石に對し大國としての支那の存在を默殺したことは頗る氣色を害するものがあつたに違ひない。

自由と獨立とを謳歌する大西洋憲章に少からぬ魅力を感じてゐる米國民にとつても、これは反感をそそることと勿論であらう。英國が貧乏になるといふ考へに自惚れ强い英國民が納得する譯はない。

この樣にスマッツ自ら『爆發的』と呼ぶ意見の開陳は直に議會の問題となり、勞働黨議員シンウェルはアトリー樞相に質問を行つた。これに對しアトリーは右の見解は英國政府の意見を代表せず、スマッツ個人の意嚮なる旨を答辯しなければならなかつた。

しかしながら、この演說の重大性はさらにその根本の思想の點にある。英國がその假面の理想主義をかなぐり棄てて指導者原理と大國主義とを强調するに至るとしたら、果して現在何のために戰つてゐるか、その名目を失はねばならない。その上、實力ある國が實力を獲得するために戰つてゐるといふのであれば、小國は何らこれに據り處を求めることは出來ない。

かかる思想は結局現在英國の陷つた無力、混亂の表明であり、立場の喪失であ

る。一九四一年三月頃までの演説ではスマッツは國際聯盟至上主義者であつた。チャーチルはすでに昨年三月の演説で大國主義を強調して著しい轉向振りを示してゐるが、今やスマッツもこの流れに合流し、英國では國際聯盟主義が跡を絶つたといはれるのも當然である。

第六、決戰增稅の目標

(一) 戰時增稅の必要

支那事變が大東亞戰爭に展開するとともに、我國の戰時財政は逐年急激な膨脹を辿つて來た。これ戰局の擴大、近代戰の尨大なる消耗性に鑑みれば當然のことである。

今その跡を辿つて見れば、一般會計及び臨時軍事費特別會計の純歲出豫算は昭和十二年度の五十五億圓から、昭和十三年度には八十億圓、昭和十四年度には八

十九億圓、昭和十五年度には百十億圓、昭和十六年度には百九十二億圓、昭和十七年度には二百四十六億圓、昭和十八年度には三百六十七億圓と膨脹し、昭和十八年度は昭和十二年度に比し、六・六倍になつた。

斯く尨大なる戰爭財政の需要を賄ふのは、主として、國債と租稅である。勿論戰爭財政は國民經濟力、殊に軍需物資の生產力、消費節約に依る餘剩物資、蓄積物資等に依つて裏付けられて始めて圓滑な運營を期し得られるが、これを動員し戰力化するのは一つに國債と租稅である。

なほ戰時下特に强調せられる貯蓄の增强は畢竟國債消化に充てらるべき資金の增强を目標とするが、その間接的效果として消費を抑制し、かくして節約せられた物資及び勞力を直接軍需に或ひは軍需生產に轉換せしめる役割を果す。

國債は戰時財政需要を充足する資金調達方法として敏速性、機動性、彈力性において優れた點を持つてゐる。殊に日銀引受發行の方法によるとき所要戰費は直

に調達される。しかしこれが國民經濟力殊に貯蓄力により充分消化されない限り、甚だしい危險性を有する。しかも國債の消化が自發的、任意的なるを本則とする限りそれだけにこの危險性は大である。

之に反し、租稅は强制力を中心とした資金調達方法、購買力吸收、消費規正の方法である。從つて國債消化と同じく二つの役割を果すが、資金調達方法としては圓滑性と彈力性を缺く弱點があり、購買力吸收、消費規正の方法としては直接的、決定的、效果的な利點を有する。

そこで戰時財政需要を國債に依り賄ふか、租稅に依り賄ふか、その割合をどうするかは、以上の諸點を考慮に入れながら、各國國民經濟の特質、その時々の國民經濟狀況、國民生活、國民の負擔力等を考へて決定せられる。第一次歐洲大戰の教訓に敎へられ、今次世界大戰では交戰各國は努めて租稅收入に依り戰費を賄はうとし、あたかも增稅戰爭の如き觀を呈してゐる。例へば歲出總額に對する租稅收入の割合を見ると、昭和十七年度では英國四四%、米國三二%、獨逸三三%となつてゐる。昭和十八年度では、その後の增稅により英國五〇%、米國四六%と一層增加してゐる。

我國における歲出總額に對する租稅の割合は昭和十七年度二八%、昭和十八年度二六%で主要交戰國に比べて低率である。これは我が國現在の國民經濟狀況、國民生活等に鑑み愼重に考慮された結果である。しかし、今日、決戰の深刻化に伴ひ國民一般の一層の負擔と覺悟とを要請する必要が生じて來た。

他面日本銀行券發行高は、懸命の貯蓄奬勵、國債の消化等にかかはらず戰時豫算の實施に伴ひ著しく膨脹し、事變前たる昭和十二年六月末の發行高十六億四千萬圓が昭和十八年末頃には九十億圓臺に達するに至つた。勿論政府の强力なる施策、特に貯蓄增强方策その他資金面の施策の外、物價統制、配給制度の整備等によりインフレーションの進展は有效適切に阻止せられ、國民生活の安定は保持

されてゐるが、なほ過剰購買力は凡ゆる形で各方面に現れ、民需物資の供給減に拘らず需要は却つて旺盛となり、物價の騰勢を刺戟し、國民生活の安定を脅かしてゐる。對策として、一方、極力消費を規正するとともに生活物資の最低限配給を確保し、他方、可及的に過剰、浮動購買力を吸收する方法を講ずる必要がある。この有效かつ決定的なる方策は租稅の增徵を措いて他にない。

今次の增稅は以上の諸點に鑑み、各般の事情を考慮し、本年度の歲出豫算の膨脹をも考へ、直接稅、間接稅を通じ、初年度約二十二億圓、平年度約二十五億圓の空前の增徵を敢行した。

（二）今次增稅の方針

未曾有の今次增稅の第一目標は國家財政の需要に應ずる國庫收入の增加を計ることにある。歲出豫算は苛烈なる戰局に鑑み恐らく前年の一般會計及び臨時軍事費の合計三百六十七億圓に比し相當增加すると豫想される。これを賄ふには是非相當の增稅が必要であつた。

第二、前述の如き事情に鑑み、この際租稅收入を增加し戰時財政の基礎を鞏固ならしめ、ひいては戰後の經濟事情の變動にも適切なる考慮を拂ふことが財政經濟政策上必要と認められた。徒らに安易を貪り、國債の增發に依存することは、現下の情勢においては最も危險であり、かつ戰後にも大きな危險を殘すこととなる。現在、我々國民は齒を喰ひしばつてもこの大增稅を堪へ忍んで勝ち拔かねばならない。

更に第三に、本年度の未曾有の尨大豫算を通じ、國家資金の撒布は著しく增嵩するので、これから生ずる浮動購買力を吸收し、惡性インフレーションの發生、進展を防止するのが今次增稅の一目標である。現狀では增稅こそは最高の對インフレーション策といひ得よう。ここにも今次增稅の大きな意義が存する。

なほ今次增稅に當り、その他生產力の擴充、企業整備の促進、貯蓄の增强等戰

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

時下緊要な經濟諸政策との調和にも愼重なる考慮を拂ひ、また稅制及び賦課徵收制度の全般に亘り簡素化を圖つた。

（三）　增稅の內容

如上の趣旨、目標の下に政府は直接稅を中心に大增稅を行ひ、併せて間接稅の增徵をも圖つた。直接稅增徵に中心を置いたのは昭和十八年度の增稅が間接稅を主とした點等によるが、間接稅についても奢侈的消費、決戰下節約可能と認むる消費等に對する消費稅をさらに增徵した。今次增稅の中心は稅率の引上であるが、なほ課稅範圍も擴張された。いまそれらの概略を述べれば次の如くである。

一、直接稅の增徵

（イ）　直接稅の增徵は所得稅が中心である。特に分類所得稅の增徵に重點を置き、總額で五割程度の增徵を圖り、綜合所得稅は二割程度の增徵に止めた。合計初年度十億二千八百萬圓、平年度十一億四百萬圓の增收見込で、今次增稅に依る增收見込總額の五割近くを占める。稅率は分類所得稅では原則として百分の五宛引上げ、綜合所得稅では百分の二乃至百分の六引上げられた。この結果兩稅を併せると最も負擔の重い不動產所得では最高稅率は百分の九十五となり、敵米英の最高稅率百分の九十三または百分の九十七・五に匹敵することとなつた。

（ロ）　法人稅は所得に對し二割を增徵し、資本に對し十割を增徵し、初年度一億四千五百萬圓、平年度二億四百萬圓の增收見込である。

（ハ）　次に增徵金額の多いのは臨時利得稅で、初年度一億三千萬圓、平年度一億八千二百萬圓の增收見込で、法人臨時利得稅及び讓渡利得に對する臨時利得稅の稅率が夫れ夫れ百分の五宛引上げられた。

（ニ）　其の他通行稅七割程度（平年度增收見込額五千九百萬圓）、相續稅二割程度（二千五百萬圓）、登錄稅二割程度（二千四百萬圓）、特別法人稅七割程度

（千三百萬圓）、配當利子特別稅六割程度（三百萬圓）の增收を見込んでゐる。このうち課稅基準が著しく變つたのは通行稅で、從來の階級定額稅率が粁當りの比例稅率に改正された。

（ホ）　尙地方團體の防空費等決戰下避くべからざる地方財政需要の增加、數年來增稅を行はざりし關係等に鑑み、かゝる制限外課稅を抑制し各地方間の負擔の均衡を圖る意味をも加へ、地方還付稅たる地租、家屋稅、營業稅についても、稅率を夫れ夫れ百分の三、百分の二・五、百分の二に引上げて、地方財政の强化を圖つた。

二、間接稅の增徵

（イ）　間接稅增徵中のうち主なものは酒稅の增徵で、總稅額で七割程度の增徵を圖り、初年度四億一千八百萬圓、平年度四億六千四百萬圓の增收を見込んでゐる。稅率は各種酒類の品質等に應じ引上程度を異にしてゐるが稅率引上の結果淸酒の小賣價格は一升につき一級酒十二圓程度（現行七圓）、三級酒五圓程度（現行三圓五十錢）に、麥酒は大壜一本につき一圓三十錢程度（現行九十錢）になる見込である。

（ロ）　物品稅も稅率を引上げて百分の二十乃至百分の百二十（現行百分の十乃至百分の八十）等とし、初年度二億三百萬圓、平年度一億九千萬圓の增收が見込まれてゐる。

（ハ）　遊興飮食稅は稅率が百分の二十乃至百分の三百（現行百分の二十乃至百分の二百）に引上げられ、初年度一億五百萬圓、平年度一億一千六百萬圓の增收見込である。

（ニ）　其の他砂糖消費稅は普通砂糖につき二割程度、業務用等につき十割程度（平年度增收見込額三千四百萬圓）、入場稅五、六割程度（二千三百萬圓）、淸涼飮料稅五割乃至七割程度（千五百萬圓）、特別行爲稅五割乃至七割程度（千

四百萬圓)、廣告稅五割乃至二十割程度(七百萬圓)の增率を行ひ、織物消費稅は非課稅織物を廢止し、平年度五百萬圓程度の增徵を圖り、骨牌稅も十割程度增稅することとなつた。

(四) 稅制及び賦課徵收制度の簡素化

未曾有のこの增稅が圓滑に實施せられ、豫期の成績を擧げるにはかかる增稅を必要とする現下の緊迫した事情に對する國民の深い理解と、これに對する國民の全幅的協力に俟つこと勿論である。しかしこの反面、稅制及び賦課徵收制度も、納稅の煩瑣、苦痛を緩和しまた徵稅事務が圓滑に確實に運營されるやうに工夫せねばならない。

今回の增稅に當つては決戰下の事情に鑑み、特にここに重點を置き、能ふ限り稅制及び賦課徵收制度の簡素化を圖つた。

その主なるものを述べると(イ)丙種事業所得の新設による源泉課稅の擴張、

(ロ)山林所得に對する綜合所得稅の廢止、(ハ)甲種勤勞所得に對する各種控除の簡素化、(ニ)各稅の納期の整理及び單純化、(ホ)納稅金等の端數整理の簡素化、(ヘ)酒稅における造石稅の廢止、(ト)內外地間課稅の簡單化を斷行した。この他にも各稅に亘り種々の點に賦課徵收事務或ひは納稅の簡素化を圖り、決戰下の事態に卽應するやうに租稅制度を整備した。

(五) 戰時諸政策との調和

さらに今次增稅に當つて、生產力擴充、貯蓄の增强等現決戰下最も緊要なる諸政策との調和に多くの考慮が拂はれた。その考慮は主として臨時租稅措置法の改正に現はれてゐるがその主なるものは(イ)設備擴張、國債買入等に充てた法人留保所得の輕減擴張、(ロ)長期預貯金等の輕減擴張、(ハ)山林增伐による所得の輕減擴張、(ニ)企業整備等の場合における課稅特例の延長等が行はれた。その他、國民貯蓄組合法の改正により國民貯蓄非課稅範圍が元本七千圓より一萬圓に引上

げられ、貯蓄增强に資することとなつてゐる。

第七、日滿を通ずる食糧自給の展望

食糧の確保が大東亞戰爭完遂のための不可缺の前提であることを、國民はいま身を以て學んでゐる。今年度は莫大の外米輸入を、內外地、滿洲國を通ずる自給自足に切換へる結果、需給の逼迫甚しかるべきは當初より豫見されてゐるが、幸にしてこの困難な時期を切拔け得る成算は略〻立つた模樣である。昨年度に比し相當の强化を見た供出割當も好調に進み、一月十九日現在既に目標の七割を突破した。麥の增產は植付目標二百萬町歩に近い成果を收めたが、依然今後の重大問題として殘つてゐる。外地及び滿洲國への期待は別に記したが、之には輸送の隘路がつきまとふことを看過し得ない。需給推算に於て一應の均衡を得たとはいへ、その中には、事態の今後の展開によつて規定さるゝ點が少くないことを銘記

し、萬全の備へを固めねばならぬ。

(一) 朝　鮮

(イ) 需給事情

內地の主要食糧確保のために、朝鮮農業の果しつゝある大なる役割は周知の通りである。その大宗をなす鮮米の內地移出は、昭和十三年の一、〇七〇萬石を頂點として漸減の傾向にあつたとはいへ、なほ五百萬石臺を上下する莫大なものであつた。偶〻十七年產米の凶作による移入杜絕は、內地の需給逼迫の根因をなしたが、朝鮮自體にとつても昨米穀年度は、始政以來未だ嘗て見ぬ困難な食糧事情に當面した。

十七年產米一、五六八萬石（平年作比七〇〇萬石以上の激減）に加へて、半島の常食たる麥其の他雜穀類も不作であつて、鋭意供出と消費規正に努めたが、なほ且つ數百萬石の絕對不足を生ずることが見込まれた。かくて滿洲雜穀約二百萬

石、外米約百萬石の輸入を以てしたが、未だ之を補塡するに充分ではなく、殊に後者の輸入は圓滑を缺き、消費規正を極度に強化しつゝ端境期を耐へ拔かねばならなかつた。

期待された十八年度產米も再び寡雨に禍され、その第二回收穫豫想一、八七〇萬石餘、前年比三〇〇萬石の增に過ぎず、平年作に比すれば約四三〇萬石の減を見込まれる。雜穀類の作況も亦良好ではない。

半島の食糧統制に於て特に注意されるのは、米、麥及び雜穀(粟、大豆等)に就て同一の取扱を行ひ、之等を綜合して統制を加へてゐる點である。從つて自家保有量を算定するにも——內地に於ける如く麥類の供出制が米と取扱を異にし、事實上農家の手許に若干の餘裕を存せしめるのとは相違し——右の三つを綜合して之を定めてゐる。これは半島の食習慣にも起因するが、農家自家消費の規正と云ふ觀點よりすれば、內地よりも强化されてゐると見られよう。

扨本年度の需給事情如何。朝鮮の主要食糧消費量は最低限(年間)三千數百萬石を見込まねばならぬが、之に對する本年度の供給は、前記十八年產米一、八七〇萬石と、その四割見當の雜穀類に加へて、本年產麥を平年作と見込んで約九〇〇萬石、更に諸類の綜合配給並に前年度よりの持越米若干、これら總てを合して漸く前記需要量を賄ひ得る程度である。從つて前記需要量を更に壓縮し、搗精步留引上等の措置を講じても、內地への移出餘力は僅々數十萬石に過ぎない。先に記した如き前米穀年度の實情を知れば、このことは容易に了解し得る。

こゝに注意すべきは、從來とも鮮米の內地移出を推進する上に、滿洲雜穀の朝鮮への輸入が呼び水としての重要な役割を果してきた事實である。幸にして昨年の滿洲の豐作によつて、本年度は二割程度の輸入增を見込み得る模樣で、之に本年產麥の增產を前提として更に五〇萬石見當を追加すべく、既記の移出餘力と合して四〇〇萬石程度の內地移出計畫が進められてゐる。

アジア経済研究センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

いまや半島の食糧事情も亦決して安易ならぬ秋に際し、乏しきを割いて内地への寄與を完遂せんとする官民の熱意と苦闘とに對して、滿腔の謝意を捧げる。

（ロ）　增産計畫

十七、十八兩年度の需給逼迫は、いづれも旱魃による凶作に原因した。自然還境は依然として朝鮮の米作を不安ならしめてゐる。この根因をなす水利不安全畓を解消せしめて豐凶の差を少くすると同時に、併せて單位收量の增加を圖ることは、朝鮮農業に課された最も緊急の命題である。これが解決を見ぬ限り、獨り朝鮮と云はず、日本の食糧需給關係は絶えず動搖と不安定とを免れ得ないであらう。

水田總面積一七六萬町歩、その五割は水利不安全畓と云はれ、その中天水畓は五四萬町歩を數へる（雨水を待って初めて植付可能な畓）。かくして灌漑事業は朝鮮の土地改良事業の中心を形成する。

その着手は遠く大正十年に遡るが、現在としては、昭和十五年度以降同三十年度に至る十六ケ年間に五十七萬町歩の土地改良を實施し一、一三八萬石（(1)土地改良に依り六一九萬石、(2)耕種法改善に依り五一九萬石）の增産を圖り、總生産高三、四六四萬石の確保を目途として計畫を進めつゝあつたが、更に昨年末の閣議決定により計畫の一部を繰上げ十九年中に完成を圖る外、既着手事業の促進をも圖ることとなつた。これによつて一一六萬石餘の增産を見込み、更に耕種法改善、耕地保全等を行ひ合計約六〇〇萬石の增産を期し、本年産米は二、九二七萬石を目標としてゐる。農業朝鮮はこゝに新たなる相貌を以て登場しようとしてゐる。

（二）　臺　灣

內地主要食糧の需給調整上、臺灣米の果しつゝある役割も亦看過し得ない。灣米の內地移出は近年二、三百萬石を上下して來たが、昨米穀年度は、十八年一期作が前年に引續き不振であつた爲に（三八二萬石、平年作比約四〇萬石減）、計畫量の八割程度にとゞまつた。

臺灣の主要食糧消費は六百萬石を若干上廻るものと見られるが、之に對して本年度の供給見込は十八年二期作米、本年一期作米の兩者を合して八百數十萬石を主力とする。更に內地の食糧事情に鑑み可及的に增送を行ふべく、本年二期作の早植奬勵によつて約三〇萬石の早期移出をなす他に、甘藷の米代替四〇萬石以上(米に換算)と若干の持越米をも含めて九百數十萬石の供給を豫定してゐる。從つて內地移出は前年度計畫量の略〻二割增、實績に比して四割近くの增送を實現する意氣込でゐる。

右の移出增加のためには、朝鮮に於けると同樣搗精步留の引上を行ひ、甘藷による代替を圖り或ひは持越量を極力縮減する等多くの苦心が拂はれてゐることを注意したい。灣米の增產は、蔗作の米への轉換、土地改良、耕種法改善等の施策によつて十九—二十三年度間に一八一萬石を豫定し、基準量と合して一、〇二三萬石を企圖してゐる。臺灣では麥その他雜穀類には未だ注目すべきものがない。甘藷は最適地として十七年の實收は四億貫餘に上り、更に本年は第二次食糧增產對策に基づき七萬甲(一甲は〇・九七八町步)の新規作付を行ひ、六億貫近くの生產を豫定してゐる。甘藷の供出制も既に實施され、米と綜合して自家保有量を定める建前であるが、家畜飼料及び特殊燃料方面の要請も莫大なものがあり、差し當つては一億貫程度の供出を見込んでゐる。今後この增產が本格化し、その主要食糧化が促進されることによつて、米の內地移出には一層の期待がかけられよう。

(三) 滿洲國

(イ) 滿洲農業の對日寄與

滿洲農業にかけられた期待は、いま輝かしい成果を結んで、決戰下の食糧確保に千鈞の重みを加へようとしてゐる。日滿を通ずる自給自足態勢の確立、苟も食糧事情に關心を抱くほどの者はこの命題の帶ぶる大なる意義を卽座に了解し得よう。

昨秋の滿洲作況は主要農產物合計一、八四八萬瓲、前年比九三萬瓲の增收を見

込まれてゐるが(第二次收穫豫想)、現實には康德五年の一、九三〇萬瓲に匹敵する大豐作と傳へられる。就中糧穀三品高粱、玉蜀黍、粟は前年に比し作付面積、收穫高共に略〻一割の增加を示し、前記主要農產物合計の殆んど七割を占めてゐる。(但し大豆は微增にとどまり、小麥は面積、收穫高共に三割以上の激減を豫想されることは注目せねばならぬ。)

收買も極めて好調に進み、既に去る一月八日現在本年度計畫量の七三二萬瓲を突破、今後なほ相當の增加を見込まれてゐる。三品は前記生產事情を反映して最も好成績で、計畫量を突破すること三割に及んでゐる。

康德六年農業統制實施以來のこの大成果は、自然條件に惠まれたためであるとは云へ、同國農業政策の躍進と之に呼應して立つた農民の敢闘を物語つてゐる。蒐荷對策として最も效果的であつたのは、作付前に出荷割當を行ひ、しかも之は絕對に變更せぬことを强調した點であると云はれ、その他綿製品の特配(前年度同樣に出荷量一瓲に對し綿布一〇平方ヤール、中入綿一滿斤、綿絲二紐を配給する外に、十一月十五日迄の早期出荷者には中入綿一滿斤の特配を行ふ等)、北滿等價地帶の收買價格を南滿地區のそれと均衡を保ち得る程度に引上げた點、奧地の驛出馬車賃、河筋地區の金利、倉庫保管料等の農民負擔輕減、糶收買價格引上等の諸施策が夫々大きな役割を果した。

かくて滿洲國側では、對外輸出(內地、朝鮮、臺灣及び北支向)を收買目標の約三割と抑へ、その中內地向輸出は大豆、大豆粕、糧穀類を含めて百二、三十萬瓲程度と想定した模樣であつた。右は前年實績に比し二割以上の增となる譯である。事實今年度の收買量は前年より百萬瓲內外の增加を見てゐるが、國內の需給關係に徵すれば、收穫外の供給力(對歐輸出の滯貨、中支方面よりの輸入)の低減、鑛工業部門、飼料需要、特需等の增加は必至であり、更に朝鮮、北支側よりの增送要請をも顧慮すれば、右の程度の內地輸出も並々ならぬ厚意に出でたものと考へ

ねばならぬ。しかも內地の需給事情はこれによつてはなほ補塡し得ざる相當大量の赤字を見越されてゐる。目下日滿兩當局間に進捗中の折衝についてこれ以上立入ることを避けるが、少くとも滿洲國側の當初の想定程度のものを最低限度としてーこれによるも前年比增送分二、三十萬瓲は擧げて食糧に充當される筈であるが、右は米に換算して略、百五十—二百萬石と見積られる—なほこれ以上の輸出が實現することを固く信じて疑はない。

（ロ）滿洲農業の課題

昨秋の豐作が糧穀三品に集中して、大豆及び小麥には停滯乃至減產の傾向が表はれてゐることは既に一言したが、全體として滿洲農業生產力に見られるこの遞減的傾向を阻止することは焦眉の急を要する。例へば單位面積當り收量に於て「農業恐慌、滿洲事變による生產力に對する打擊の年（昭和七年—十一年）は、これに先だつ數年に比して一割五分乃至二割の低下であり、その後に於ても恢復せぬのみか一層低下の傾向を示し、そのために作付面積の相當顯著な增加にも拘はらず、總生產量の恢復も未だ昭和二年—六年の水準に達してゐない」と云はれてゐる。

一兩年來高粱、玉蜀黍、粟の如き食料作物の增產は右の例外を示すものであるが、作付面積及生產量に於て全農產物の首位を占め、粗放掠奪的農業經營に於て地力の維持に不可缺の役割を果して來た大豆栽培が、統制實施後その作付面積を漸減しつゝあることは憂慮に堪へぬ。（昭和七年を一〇〇とする作付面積指數は、十四年一〇七、十七年九〇、全生產量指數は十四年九二、十七年七四を示す）。

周知の通り大豆、高粱（或は玉蜀黍）、粟の三年半乃至四年輪作は南北滿を通じて汎く行はれ、大豆の空中窒素固定による肥力增進は在來農法に於ける地力維持の唯一の方途であつた。しかるに兩三年來五年輪作となるに至り、從來の比較的短期輪作の時代にさへ相當の地力減耗を免れ得なかつたものが、最近は更にその度合を强めつゝあることは明かで、この點農產物全體の減產を招來することは必

至であらう。正常なる大豆輪作の實施こそ、增產方策の根幹をなすものである。

大豆減產の原因としては次の如きものが指摘される。イ、大豆收買價格が他に比し低廉であつたこと。ロ、農家の食料農產物確保の傾向（大豆に對する蒐荷工作の强行、頻繁なる農產物統制方策の變更等の影響をも含めて）。ハ、勞働力確保が困難となつたこと。――之に對して政府は最近大豆收買價格の大幅引上、必需物資の增配、統制方策の確立、作付割當の實施、勤勞動員の强化、都市人口の農村への還元等の措置を講じつゝあるので、大豆生產はこゝ一兩年を谷として上昇に轉ずるものと期待されてゐる。明年度增產對策に於ても大豆增產を基本的命題として取上げてゐるが、日本內地の食糧事情よりして、良質蛋白給源として滿洲大豆への期待はまことに切實なものがある。

× × ×

目下集計中の十八年產內地米實收高は、第二回豫想收穫高六、二五五萬石より稍〻好轉する模樣であるが、前年實收高に比し三百五十萬石程度の減收は免れ難いであらう。之に對して需要は、從來內地の米消費量と見られた八千萬石臺を若干上廻ることが豫想される。それは農家自家消費量に對し――前年度の規正に追加して――更に抑制を加へ、酒米の如きは實に前年度の六割程度に削減したにも拘らず、一般配給用は消費規正が殆んどその限界に達してをり、却つて人口自然增による消費增、勞務動員の强化に伴ふ加配增等のために相當の增加を餘儀なくされる故である。

こゝに於て供給面に、十九年產麥類、雜穀類等の數百萬石、甘藷・馬鈴薯類約二〇〇萬石、十九年產早場米の相當量及び前年度よりの持越米若干、內地產のものとしては考へ得るべきこれら殆んど總てを擧げて一、〇〇〇萬石（いづれも米に換算）程度を組み入れたにも拘らず、なほ且一、〇〇〇萬石內外の不足分を生ずることが見越される。

外米依存を根本的に脱却する建前のもとに發足した本年度である。既に内地として動かし得べきものは多くを數へ得ない。かくて外地及び滿洲國への期待は切實さを加へる。幸にして既記の如く鮮米四〇〇萬石内外、臺灣米二百數十萬石程度の移入は可能の模樣である。從つて若し殘餘の約三〇〇萬石が滿洲大豆、同雜穀類によつて補塡されるならば、内外地及び滿洲國を通ずる食糧自給態勢は完成に近いと云へよう。

「幸ひに内地農民諸君の非常な努力、また外地および滿洲國の熱心なる協力によつて、少くとも主要食糧について現在の配給基準量を確保することについてはなんら不安がない」今次議會に於ける山崎農商相の右の言明は、食糧の自給態勢確立の目途既に成れるを言外に物語つてゐる。

戰局の現段階と船舶の重要性

(一) 前　言

現下造船の重要性に言及するに萬人周知の事實として聊か輕視の嫌無しとしないのであるが、其の重要性に關する認識理解の度を考察するに、恰も太陽や空氣が吾人の生きんが爲絶對不可缺の要素であるにも拘らず日常其の重要性を痛感してゐないのに似たものが無いであらうか。最近五大重點產業を始め各般の高事施策が高調せられつゝあるが茲に更めて船舶の重要性を强調したいのである。

(二) 戰爭指導上より觀たる船腹の意義

現下帝國萬般の施策は究極する處軍需生產力の增强に歸一せられるのであつて軍需生產力の基盤は實に我が物的國力に存し更に我が物的國力の消長は輸送力に依存するのである。卽ち輸送力の消長卽國力、卽軍需生產力と斷じても過言ではない。而して我國防資源の大半は海を隔てて本土以外に期待して居るから、現下の如く輸送力の主體が船舶に依存する限り帝國保有船腹量の推移如何が帝國の物的

戰爭遂行能力の計器と斷じても差支へないのである。從つて我保有船腹量が上昇曲線を執る限り之と併行して我が國力も將又軍需生產力も逐次好轉し、從つて今次の大東亞戰爭が如何に長期化する事があつても毫末も其の前途を憂ふる必要は無いのであるが、反面若し夫れ下降曲線を以て推移することありとせんか大東亞戰爭の前途は實に暗澹たる樣相を豫期せられるのである。即ち船腹の減少は全產業部門に惡循環を招來し、遂にはジリ貧狀態となつて、或る限界に到達せば如何に超非常對策を執るも拾收し得ざる事態に逢著すべき事は必至である。

以上は主として物的國力確保の見地より論述したのであるが、戰爭指導の立場としては更に船腹と作戰との相互關係に就て考慮する必要がある。

周知の如く今次世界戰爭の現段階は正に補給戰である。獨ソの戰線は陸路補給戰であり英米の歐洲大陸第二戰線の構成或は日米太平洋の現戰勢は共に洋上補給戰と觀るべきである。而して補給の完遂とは第一線將兵の所望する軍需品を所望

の時機、所望の地點に送達することである。換言すれば銃後としては全力を擧げて軍需生產力を增强し、其の成品化された軍需品を的確迅速に第一線へ輸送する事である。皇軍の現占據地域が如何に遠く如何に廣大であるかは玆に贅言を要せざる所であつて、此等第一線將兵の戰力を維持增强せんが爲には尨大なる軍需品の輸送を必要とし、之が爲陸海軍共に相當量の補給船腹を絕對必要とすること亦明かである。皇軍の精强無比なるは周知の事實であるが、此の精銳なる皇軍が遺憾無く其の實力を發揮し更に進んで强力活潑なる作戰を遂行せられんことを銃後として祈念するならば、先づ以て銃後の責務たる補給に萬遺憾なきを期することが先決條件である。彼のガダルカナルの轉進作戰と謂ひ或はアッツ、タラワ島の玉碎と謂ひ補給の骨幹たる船腹之を許すならば、彼我其の樣相を異にしたであらう事を確信するものである。

作戰遂行上補給輸送の重要なること前述の如くであるが、之が完遂の爲には絕

えず敵の之に對する妨害を考慮せねばならぬ。卽ち兵員、武器彈藥の戰場に到着せざる以前に於ける洋上の船舶擊沈が最も有效なる手段として今後一層熾烈化することは必至と謂はねばならぬ。今後益〻增大すべき此の船舶損耗量に對しては國家としては飽く迄補塡充足する必要がある。若し夫れ萬が一にも其の損耗量を補塡し得ざる事態に逢著せんか、一億努力の結晶たる軍需品は啻に第一線將兵に補給し得ざるのみならず延いては忠勇なる皇軍をしてアッツ、ギルバートの轍を踏ましめ、遂には現戰略態勢の確保亦至難となるのである。

以上の如く船腹は國力增强の見地よりするも將又作戰遂行の見地よりするも極めて重要であり我が戰爭指導上の最大眼目と謂ふべく、造船が五大重點產業の一つとして揭げられた所以でもある。

（三）　皇國必勝不敗の態勢の再檢討

世人動もすれば廣大なる皇軍の現占據地域と其の地域內に賦存する豐富なる國防資源とを觀て、皇國絕對不敗の態勢を確立し得たりとして皮相なる樂觀的言辭を弄するものがあるが、皇國必勝態勢の完全なる確立は今後の我々の努力に負荷せられたる重大責務であることを十二分に認識せねばならぬ。まことに航空機の生產原料たる馬來のボーキサイトと謂ひ或はスマトラの燃料、蘭印のゴム、海南の鐵鑛石、北支の石炭等擧げ來れば帝國が戰前唾涎せし戰略資源は皇軍の善謀勇戰に依り悉く我が掌中に收め得たのであるが、果して帝國は其の戰略資源を完全に攝取消化し大東亞戰爭の遂行に寄與せしめて居るか否かと云ふことになると、正に實の持腐れの觀がある。之を卑近な吾人の日常生活にとつて見よう。「魚肉が足らぬ」との苦情には「觀よ四周は海にして魚類は無盡藏ではないか」と、「米が足らぬ」との不平には、「觀よ佛印、泰、ビルマは世界屈指の米產地ではないか」と又「砂糖が足らぬ」との嘆きには、「比島やジャワの住民は其の搬出せらるゝのを渴望してゐるではないか」と答へよう。人々は訴ふることのみ多くして努力の足らぬを忘

却してゐる。大東亞は今や惠まれた國である。固より軍需上の要請が絶大なので、今茲に大量の造船を達成し得ても直に吾人の日常生活が緩和せられる等毛頭期待すべくも無いが、國家の國防資源に對する態度も亦前述の卑近な吾人の日常生活に類するものがあらう。卽ち大東亞の資源を擧げて戰力化し得るならば、敵米英の國力何ぞ恐るゝに足らんやである。敵米英が莫大なる損害をも顧みず執拗苛烈なる反攻を續行して止まないのも亦茲に一因の存することは明白である。

外は皇軍善戰して敵の反攻に對し鐵壁の陣を布いて隨所に敵を擊碎し、內は大東亞の全資源を擧げて戰力化し得る時來らば、此の姿こそ帝國が完全に必勝不敗の態勢を確立し得た時である。又之が早急なる實現こそ一億國民が皇軍の赫々たる戰果に報い且は南冥に散華した將兵の英靈を慰むる所以でもあらう。

而して今や外第一線將兵は必勝不敗の戰略戰線を確保せんが爲必死の奮戰を續けつゝあるのであつて、內に對し完全なる必勝態勢確立の爲其の施策の重點として茲に造船の急速多量生產が刻下喫緊の要務として强調せられるのである。

（四）航空機生產と造船との本質に就て

最近帝國の超重點產業として航空戰力の劃期的急速增强が强調せられ、極言すれば航空機の增產が大東亞戰爭の總ての如き觀を呈して着々實現の步を進めつゝある秋、茲に造船の重要性を論ずれば如何にも對照的な嫌無しとしないのであるが、兩者の本質を的確に認識理解する事が緊要である。周知の如く航空戰力が直接陸海軍の作戰に及ぼす影響は開戰前の豫想以上に絶大であつて、殊に現段階の如き洋上の島嶼作戰に於ては其の價値は絶對的と申しても過言ではないのである。卽ち制空權の無き所地上作戰（戰鬪）も補給も成立せずとまで斷じ得るのであつて、現在展開せられつゝある悽愴苛烈なる航空戰も彼我制空權の爭奪に外ならない。卽ち我に制空權を獲得し得るならば戰場の王者として作戰の主動權を把握し得敵の反攻を粉碎して現在の彼我戰勢を挽回し得ることは火を睹るより明かな所であ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

る。從つて航空機增產は現戰局に基く作戰上の絕對的要請と觀るべきである。

之に對比して造船は前述の如く第一には國力の維持增强上の要請に基づくものである。此の見地より極端に例せば、船腹は樹根であり、航空機は樹幹であり、爾他の產業は枝葉と申すべきか。樹根枯渴して何ぞ樹幹、樹枝の繁茂を期し得んやである。更に之を人體に例せば船腹卽ち輸送力は血液であり、爾他の產業は五臟六腑であり航空戰力は腕力と評すべきか。

第二には補給完遂の見地より作戰上喫緊の要請たる事は前述の通りである。之を要するに二兎を追ふものは一兎をも得ずと謂ふが、此の航空機增產と造船との兩者を同時に併行して而も急速に飛躍せしめねばならぬ所に戰時の特殊性があり又大東亞戰爭の現段階を克服する唯一の方途でもある。

（五） 船舶損耗の推移と造船

開戰以來船舶の損耗と造船量との關係を玆に具體的數字を以て示し得ざることは的確なる認識理解を得る見地よりすれば遺憾に存ずる所であるが、概觀するに次の通りである。

開戰と同時に帝國陸海軍の大量の徵傭が必至たりし事、又爾來其の損耗量に對しては逐次補塡の絕對不可缺なることに就ては敍上の通りであるが、此の徵傭と謂ひ補塡と謂ひ其の大半は純作戰に充當使用せられるので、我が物的威力確保の見地よりすれば其れ丈民稼働船腹の減少と謂へるのである。申すまでも無く之に民稼働船腹自體の損耗を合したものが物動上の損耗量と見做し得るのである。

而して開戰以來損耗量と造船量とを比較するに、造船業は夙に五大重點產業に指定せられ各般の努力を傾注しあるに拘らず、今日尙損耗量は漸次增加しつゝあるのである。他面戰爭の本質が敵と相對的關係にある以上敵の對策も更に强化せられることは當然豫期すべきである。從つて損耗防止對策を確立する反面、我が造船量を劃期的に飛躍せしめ、縱ひ敵の我が船舶擊沈が更に强化せられることあ

るも常に損耗量よりも上廻りせしむる事が大東亞戰爭完遂上絶對の要請である。
玆に一億總蹶起して造船の劃期的增產對策を確立し、今後常に造船量が損耗量を超過して帝國保有船腹量が日に月に增加せられるならば、大東亞戰爭の前途は誠に洋々たりと謂ふべきである。

(六) 結　言

船舶は航空機の場合と同樣官民的確なる理解認識の下に克く一致協力凡有關聯部門の綜合力を結集する事が最も緊要である。尙最後に附言致したいのは造船の目的は飽く迄之が運航に存するのであつて、涙ぐましき努力の結晶が一方に於て背馳するが如き事無き樣切に要望して止まない次第である。

(終)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp